

## 「まちづくり」を目指す地域プラットフォーム の設計と課題

森藤義雄<sup>†</sup> 堀 幸雄<sup>††</sup> 今井慈郎<sup>††</sup>

概要:

地域社会と連携し、地域情報化の実現に向けた情報共有ツールの要求仕様と設計を行い、プライベートでの利用も加味した地域プラットフォームを提供する環境について報告する。地域プラットフォームはオープンソース・ソフトウェアで構成し、既存のグループウェアのみでは実現が難しい組織間での情報共有について、具体的な事例を通じて、効果を確認した。

地域プラットフォームのベースとなるのは、地域 SNS およびブログツールであり、各種機能を分析し、地域 SNS 機能およびブログ機能を試作する上での利点・欠点について考察し、地域の特性にあった構成を採用している。

キーワード: 情報共有ツール, 地域プラットフォーム, 地域 SNS, ブログツール

### Design of an Regional Information Platform with Regional SNS System and Blog Tools for Community Revitalization

Yoshio MORITOH<sup>†</sup> Yukio HORI<sup>††</sup>  
Yoshiro IMAI<sup>††</sup>

Abstract:

An information-sharing tool has been specified and designed to realize regional computerization. It plays an important role to be a social interaction tool for an environment of regional information platform in cooperation with local community. In order to design an effective information-sharing tool, we decide to combine both of regional SNS and Blog tool as an approach with open-source Software. We have analyzed, investigated and discussed some functions of SNS and Blog tools for the sake of useful information-sharing tool to realize regional platform. This paper presents current work about regional platform, an example of regional platform called "UTAZU platform", and its case study as real information-sharing tool.

Keywords: Information-sharing tool, Regional information platform, Blog tool, Social networking service

### 1. はじめに

総務省は、2007年11月6日から、「ICT地域活性化の総合的な支援体制の整備（地方再生への構造改革に向けて）」として、ICTによる地域活性化に意欲的に取り組む地域に対して、支援体制の整備を行うこと[1]になった。この整備には、ICTによる地域活性化を「基盤」・「利活用」・「人材」の面から総合的にサポートするために、地域情報化アドバイザーを派遣する体制がある。そして、2007年度の地域情報化アドバイザー・メンバーには、地域 SNS (Social Networking Service) 「ひよこむ」の開発者が含まれており、SNS が地域活性化を図るツールの1つとみなされている[2]ことも理解できる。

地域情報化には、自治体内部の情報化および自治体が主体として実施する地域情報化と、住民グループや教育機関および商工会のように自治体以外が中心となって、地域プラットフォームや地域メディアという形態で行う地域情報化がある。後者の貢献により、各地で生涯学習推進、起業化促進、地場産業振興および雇用マッチングが行われているとの報告[3]がある。例えば、高松市では、財団法人地方自治情報センター (LASDEC) の「e-コミュニティ形成支援事業：住民参画モデルシステムを活用した地域活性化に関する実証実験」として、地域住民の参加による地域振興と地域情報化のために、2007年12月に「たかまつ市民ブログ：あしたさぬき.jp」を開設した。このブログは、市民団体の持つノウハウを行政サービスに活用する市協働企画提案事業として開設しているが、参加する個人、企業あるいは団体が観光イベントなどの身近な生活情報を発信することで地域メディアとして機能している。

企業でも、広告媒体、SEO 対策および SEM 手法としてのビジネスブログが浸透しているが、地域社会における地域コミュニティ再生と同様に、社内コミュニティの活性化と部門間の情報共有のために、社内グループウェアを補完する形で組織横断型の社内ブログが導入されている。

香川短期大学（以下、本学と略記）においても、2003年から学内グループウェアとして CybozuAG を整備し、2005年から学内ブログとして MovableType3.2 を導入することで学内コンテンツの Web 化を推進してきた。しかし、本学教員と学生が地域ボランティアとして参加している「うたづの町屋とおひなさん」などの地域行事や、本学教員が委員として参加している「宇多津まちづくり委員会」などの町内の各種委員会などを対象とした学外組織と学内組織とを連携させる形での、情報共有環境を検討した場合、既存の環境だけでは、共有基盤となりえないことが判明し、改善すべき課題

<sup>†</sup>香川短期大学  
Kagawa Junior College.

<sup>††</sup>香川大学  
Kagawa University

となった。

2006年7月に「宇多津まちづくり委員会」情報システム分科会として、町内組織での情報発信状況を調査し、2006年12月に「うたづ日曜楽市」において個人の情報受信状況を調査した結果、町南部と北部の人的交流が極めて少ないこと、情報共有環境が極めて限定的であることなどの問題点も明確となった[4]。そこで、地域社会と連携した地域情報化の実現に向けて、プライベートを含むゆるやかな情報共有ツールとして、ブログツールおよび連動する地域 SNS システムからなる地域プラットフォームを試作した。

本稿では、開設した地域 SNS システムの概要、ブログツールとの連動、およびこれらを用いた地域プラットフォームの現状と課題について報告する。以下では、地域情報プラットフォームの現状について述べ、3節では地域プラットフォームの具体事例として「うたづプラットフォーム」を紹介し、続いて、4節では、その利用例を示し、問題点をまとめている。

## 2. 地域情報プラットフォームと地域 SNS

### 2.1 地域情報プラットフォーム

財団法人全国地域情報化推進協会 (APPLIC) で推進している地域情報プラットフォームのプロジェクトは、自治体を主体とした地域の情報システム間の連携基盤である。このプロジェクトでは、組織横断的な行政サービスを実現するために、産学官の取り組みの調和を図りながら公共情報インフラの設計を進めており、Web サービス技術を活用した SOA を基本設計としている[5]。

このような地域の情報システム間連携は、自治体以外の主体が行う地域情報化の分野でも始まっている。例えば、LASDEC の 2007 年度「e-コミュニティ形成支援事業：地域 SNS 間連携の実証実験」では、兵庫県地域 SNS「ひよこむ」を中心に、OpenSNP で運用している地域 SNS 間連携実験や open-gorotto で運用している地域 SNS との連携が行われた。

それ以外にも、日産自動車のカーナビ向け情報配信サービス「カーウイングス」では、2007年4月から、千葉県南房総安房地域 SNS「房州わんだらんど」の「カーナビに教えたい！」コミュニティと連携し、お勧めの南房総安房地域のドライブルートや観光情報などをリアルタイムに表示するサービス[6]を行っている。

### 2.2 従来のグループウェアの問題点と SNS の分類

従来のホームページやグループウェアではシステム管理者のみが情報コンテンツやフォルダや掲示板およびユーザを一元管理するために、固定化された組織やメンバー間での情報共有には適しているが、流動的・多様・少量という地域メディアの情報

コンテンツを構築・管理するのが難しいという指摘があった。

例えば、CybozuOffice6 上で組織横断的に流動的な情報コンテンツを運用するには、システム管理者が委員会組織的なグループを作り続けるか、一般ユーザの送信メールのフォローを関係メンバーが書き続けるような方法となってしまう。そのため、フラットでリーダーとメンバーが流動的な組織で情報コンテンツを扱うには SNS やブログという CGM (Consumer Generated Media) が必要になる。

SNS は、目的で分類すると、交流を目的としたパーソナル系 SNS、社内での利用を目的としたビジネス系 SNS および Flickr のように写真などの情報共有を目的としたコンテンツ系 SNS の 3 種類に分類できる。一方、会員の登録制度で分類すると、MySpace のような登録制 SNS (オープン制 SNS) と mixi のような招待制 SNS の 2 種類に区別できる。

前者の登録制 SNS は、名前や趣味や経歴などの個人情報に登録して、会員同士が知人や友人の連鎖でコミュニティを形成する。後者の招待制 SNS では、すでに会員となっている者を紹介者とした招待によってのみ入会することができるため、匿名性を排除できる可能性が高く、比較的安全なコミュニティを形成できる。

SNS には、「ともだち」として SNS に招待する機能や「ともだち」同士で「日記」を共有する機能以外に、「コミュニティ」を作成して情報発信する機能および自分のページに訪問した会員情報を記録する機能により、簡易なスモールワールド組織を構築することが可能である。

ブログでも、MovableType や WordPress  $\mu$  の場合、複数ブログを複数ユーザが管理する機能やコメントを承認制とする機能やユーザがブログの投稿者を管理する機能により、簡易なスモールワールド組織を構築・管理することが可能である。

### 2.3 地域 SNS

地域 SNS は、地域の住民やその関係者の交流を目的としたパーソナル系 SNS であり、八代市役所で開発されて、2004年12月から稼働している登録制の地域コミュニティサイト「ごろっとやっちょろ」が最初である。この「ごろっとやっちょろ」は、LASDEC が open-gorotto という地域 SNS プログラムとして維持・管理している。現在では、地方自治体を相互に接続する総合行政ネットワーク LGWAN (Local Government Wide Area Network) の地方公共団体業務用プログラムライブラリに登録されているため、一般公開はされずに、自治体内の端末からのみダウンロードが可能になっている。

open-gorotto は、2005年12月からの総務省 ICT 住民参加実証実験として、新潟県長岡市の地域 SNS「おこなごーか」と、東京都千代田区の地域 SNS「ちよっぴー」で運用している。さらに、2006年からは、LASDEC の「地域 SNS を活用した e-コミュニティ形成支援事業」として、八戸市の地域 SNS「はちみーつ」、前橋市の地域 SNS「まえばし市民ネットワークシステム」、秩父市の地域 SNS「ちっち」、大垣市の地域 SNS「おおがき地域 SNS」、掛川市の地域 SNS「e-じゃん掛川」、宇治市・八幡市・

京田辺市の地域 SNS「お茶っ人」、豊中市の地域 SNS「マチカネっ人」、大牟田市の地域 SNS「おおむた SNS」、五島市の地域 SNS「goto かたらんねっと」、大分市の地域 SNS「だいきりん」、奄美市の地域 SNS「まーじんま」で、以下の項目の実証実験に使われている。

- 日常的に日記や電子掲示板として利用したり、行政情報、地域情報などを入手したりすることができる地域向けの交流・情報提供サービスを行う。
- 利用者が各自の個人ポータルとして日常的に利用する地域 SNS を用いて、行政情報や災害時の緊急情報を提供することにより、地域情報のより活発な発信、流通を実現する。
- 「まちかどレポーター」制度により、住民自らが様々な地域情報を発信し、災害時には災害特派員として、災害状況や避難情報などの必要な情報を発信・補充する。

現在では、それ以外の自治体において、住民参画による政策形成・防災・不審者情報・市民活動支援・商店街振興・観光情報発信などの取り組みに利用されている[7]。

この地域 SNS プログラムについては、LASDEC が提供している open-gorotto 以外に、兵庫県の地域 SNS「ひよこむ」で開発された OpenSNP や、三重県の地域 SNS「みえちゃん+SNS」で使われている OpenPNE もあり、@PNE や So-netSNS のような SNS レンタルサービスを利用している組織もある。そして、SNS に登録された情報コンテンツの保存および権利についても、運営組織内サーバ上で管理する場合以外に、組織外にホスティングしている場合もある。

### 3. 地域情報プラットフォームの事例紹介：うたづプラットフォームの構成

#### 3.1 「うたづプラットフォーム」の構成

宇多津町は、香川県で最も小さい町でありながら、南部の旧町内（古町）と北部の商業施設を含む開発地域（新都市）という分離した2つの地域を有するレギュラモデルの町である。従来から、古町と新都市の人的交流が極めて少ないことが問題になっている。そこで、地域 SNS のような「ブリッジ」を導入することで、理論的には、スモールワールドモデルに比較的容易に移行できると考えた。

このような構想のもと、宇多津町の地域プラットフォームとして、2006 年 12 月からグループウェアと個人 SNS および個人ブログからなる「うたづプラットフォーム」を試作し、宇多津まちづくり委員会を中心に試験運用してきた実績もあった。このような経緯を背景に、2007 年から、本学を中心に、宇多津町と連携し、地域プラットフォームを再構築すること[8]で、実証実験に向けてスタートを切った。

本学の教員・学生が宇多津町の地域ボランティアとして協働する場合や教員が町内の各種委員会で活動する場合など、学内外のメンバー間での情報共有ができる情報基

盤を構成することを第一段階として、以降、ステップバイステップで地域プラットフォームへ発展できるように、登録制 SNS の open-gorotto および招待制 SNS の OpenPNE を併用しつつ、これらと連動するログツールとして WordPress  $\mu$  を選定した。

「うたづプラットフォーム」は、グループウェアを情報基盤として、登録制 SNS と招待制 SNS を並立する形態を採用し、その上位にマルチユーザログツールを配置する構成を採用している。これらのシステムは、インターネットに接続している PC からのアクセス以外に携帯電話からのアクセスが可能である。図 1 に「うたづプラットフォーム」の構成図を示す。

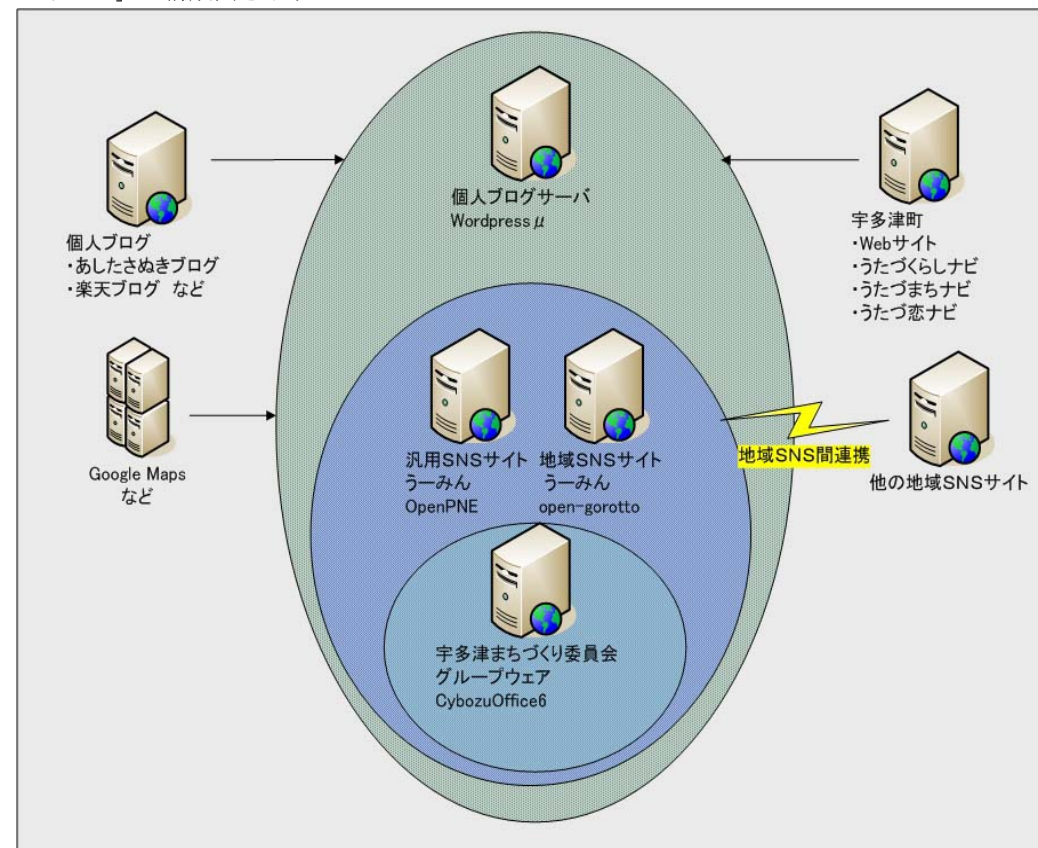


図 1 「うたづプラットフォーム」の構成  
Figure 1 Organization of the “UTAZU platform”.

以下では、「うたづプラットフォーム」を構成するサブシステムである、open-gorotto、OpenPNE および WordPress  $\mu$  について、その機能および当該プラットフォームにおける役割などを個別に紹介する。

### 3.2 open-gorotto

open-gorotto[9]は、LASDEC が提供している地域 SNS システムであり、PHP プログラムで構築され、PostgreSQL データベースを使用した GPL ライセンスのオープンソース・ソフトウェアである。open-gorotto は、登録制 SNS であり、操作を mixi に似せているため操作が憶えやすいこと、災害発生時に緊急連絡用画面に切えて災害情報や避難情報を発信できること、地方自治体および関係する組織の利用が多いこと、などの特徴がある。

open-gorotto は、mixi と同程度の手軽な SNS システムであり、身近な携帯電話からの利用を前提としているために「コミュニティ内のメンバーと連動したスケジュール機能」や「コミュニティ内に登録されている共有ファイルの更新履歴保存機能」および「メンバーへの柔軟なファイル添付を含むメール機能」が無い。そのため、情報基盤として活用する場合には CybozuOffice6 のようなグループウェアを併用する必要がある。デジタルアーカイブとして活用する場合にも、別にデジタル・コンテンツ・リポジトリが必要となる。なお、open-gorotto は、メンバーの日記に個人ブログをフィードさせることができ、行政・運営者・地域情報のニュースフィールドについても外部 RSS を登録することができる。

「うたづプラットフォーム」において、open-gorotto を導入している LAPP サーバは、正式稼働時には Red Hat Enterprise Linux Version 4 ディストリビューションを採用することを前提としたため、Red Hat Enterprise Linux Version 4 のクローン OS である Cent OS 4.5 を使用している。open-gorotto の LAPP サーバへのインストール操作は、「-H19 年地域 SNS プロジェクトインストールマニュアル 第1版」および「-H19 年地域 SNS プロジェクト管理者向けカスタマイズマニュアル第2版」に従った。

### 3.3 OpenPNE

OpenPNE[10]は、株式会社手嶋屋が中心となって開発している汎用 SNS システムであり、PHP プログラムで構築され、open-gorotto とは異なり、データベースとして MySQL を使用し、PHP ライセンスのオープンソース・ソフトウェアである。OpenPNE は、操作を mixi に似せている点は open-gorotto と同じであるが、商用利用が可能である点と、招待制か登録制を選択することができるという特徴がある。また、OpenPNE プログラムに、グループ機能・スケジュール管理機能・ToDo 機能・施設予約機能からなる PNEBIZ モジュールを追加することで簡易グループウェアとして利用できる。

「うたづプラットフォーム」における、OpenPNE の LAMP サーバへのインストール操作については、OpenPNE のダウンロードパッケージに同梱されている「OpenPNE セットアップガイド」に従った。OpenPNE は、open-gorotto や mixi と同程度の手軽な

SNS システムであるが、PNEBIZ モジュールを搭載しているため「スケジュール機能」が利用できる。しかし、「コミュニティ内に登録されている共有ファイルの更新履歴保存機能」や「メンバーへの柔軟なファイル添付を含むメール機能」は無いため、open-gorotto と同様にグループウェアを併用する必要があるなどの特徴を考慮することも重要となった。

### 3.4 WordPress $\mu$

WordPress  $\mu$  (Multi-User) [11]は、複数ブログを複数ユーザで管理できるブログツールである。PHP で構成され、データベースとして MySQL を使用し、ユーザにサービスを提供する GPL ライセンスのオープンソース・ソフトウェアである。WordPress  $\mu$  は、単一ユーザ用ブログツールである WordPressMe (Multilingual Edition) のマルチユーザ版となっており、WordPressMe 用のプラグインの一部が利用できる点が1つの特徴となっている。

「うたづプラットフォーム」における、WordPress  $\mu$  の LAMP サーバへのインストール操作については、WordPress  $\mu$  のダウンロードパッケージに同梱されている「README.txt」に従って行った。なお、地域プラットフォームでも、open-gorotto と OpenPNE の外部ブログに WordPress  $\mu$  内のユーザブログを登録することができる。

## 4. うたづプラットフォームの利用例

### 4.1 情報コンテンツの発信例

個人ブログを主な情報コンテンツとしながら、すでに地域 SNS サイトと汎用 SNS サイトを利用しているユーザを想定し、そのユーザの情報コンテンツの発信例を以下に示す。

(1) ユーザは、個人ブログサーバにアクセスして、ダッシュボードの投稿作成画面からコンテンツを入力する。

ここで、コメントの投稿を許可する場合は、「コメントモデレーションの設定」・「コメントブラックリストの設定」など、ディスカッション設定を行う。

(2) カテゴリを決め、タイトルと投稿コンテンツ等を入力し、下書きとして保存しておく。表示内容を確認後、公開をクリックすることで、個人ブログサイトに反映される。

ここで、検索エンジンやアーカイブサイト経由で誰でも閲覧できるようにするかどうかを決め、ブログの公開範囲を「プライバシー設定」で選択する。

(3) 地域 SNS サイトのマイホーム上では、図2に示すように個人ブログサイトに投稿されたコンテンツが反映されている。なお、汎用 SNS サイトの自分の日記上にも、個

人ブログサイトに投稿されたコンテンツが反映されている。

なお、図2の個人ブログではWordPress  $\mu$  Default 1.6 テーマを使用しているが、他のテーマへの変更やサイドバーにあるウィジェットのレイアウトについても変更可能である。

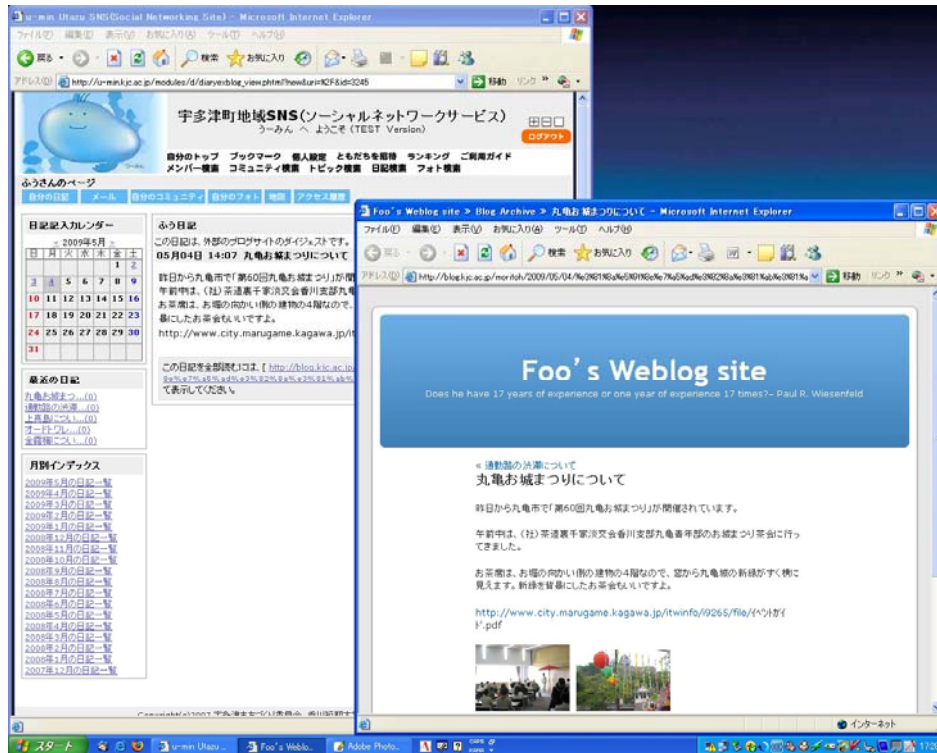


図2 個人ブログとの連動

Figure 2 Cooperation with users' Blog

(4) 地域 SNS サイト内で日記を書く場合、「地図から場所を選択」で地図上の位置を確定しておくこと、図3のように、日記で確定した地図上の位置が GoogleMaps 上に表示される。



図3 GoogleMaps での情報共有

Figure 3 Information sharing with GoogleMaps

#### 4.2 情報共有としての利用

現実的利用法としては、コミュニティ上のトピックにメンバーがコメントを書き、GoogleMaps 上に集約することでの新しい情報が生まれることを想定している。

例えば、大雨の結果として生じる冠水場所や過去の冠水情報（場所、時期あるいは被害状況）をトピックに書くことで、少雨地域である香川県においても、冠水危険地マップを構成することで、防災情報となる。これは、地域住民の危険認知と政策につ

ながった事例と言える。

他にも危機管理情報の1つとして、地域の危険箇所や不審者情報の収集が「見える化」となった事例もある。このように、地域住民の日記やコミュニティでの簡易な情報提供が、地域の共有情報コンテンツとなり、住民と行政とのコミュニケーションプラットフォームとなり、住民参加による地域貢献モデルとなっている。

#### 4.3 「うたづプラットフォーム」の課題

現状での課題について簡単に述べる。「うたづプラットフォーム」は、大学、地方自治体(宇多津町)および「宇多津まちづくり委員会」が主体となって構築した地域情報プラットフォームである。オープンソース・ソフトウェアの採用を前提として、いわばボランティアベースの組織である。実証実験の環境としては十分である。しかし、課題も少なくない。

オープンソース・ソフトウェアの採用であるため、定期保守などは総てボランティアベースであり、迅速な対応が困難となる事態も想定できる。組織自体は同好の士の集合体である点も継続性において脆弱となる傾向を否定できない。学生など若い力に期待している点で、人材育成のメカニズムを提案できていないことが大きな課題となっている。

アンケートなどを実施することで、問題点を探り、適切な対応を取ることなど対策を練る必要も痛感される。

## 5. おわりに

本稿では、情報基盤となるグループウェアをベースに、登録制の地域 SNS と招待制の汎用 SNS とを並立させ、その上位にブログツールを配置する形式の地域プラットフォームの試作およびその実証実験について報告した。具体的な内容として、地域情報プラットフォームと地域 SNS について外観し、地域情報プラットフォームの事例紹介として「うたづプラットフォーム」の構成について述べ、「うたづプラットフォーム」の利用例を紹介した。

この地域プラットフォームは、学生と教職員および地域住民間の簡易なコミュニケーションプラットフォームとして、また、プライベートを含む身近な地域の情報共有・蓄積ツールとして機能しつつある。地域プラットフォームは、あくまでもデータベースであり、コンテンツを保管するツールであり、ソーシャルインタラクションツールであるが、利用者が身近な地域情報を発信する「まちかどレポーター」日記や、コミュニティでの話題や、Google Maps 上の地域マップが蓄積されることによって実現できる。

今後は、これらの地域情報コンテンツが組織的に蓄積され、蓄えられた地域情報コ

ンテンツを地域のメンバーが学習することによって、情報伝達経路のリワイヤリングが行われることを確認したい。また、このような活動結果が、ソーシャルキャピタルとなって継続的な地域貢献へと繋がることを支援していきたい。

地域プラットフォームは、まだ実証実験のレベルであり、地域情報コンテンツの面から、個人ブログの組織内共有コンテンツとしての定型化と地域 SNS 間連携機能についても、具体的に調査し評価を行いたい。

**謝辞** 本研究に多くのご協力をいただきました宇多津まちづくり委員会の皆様、多田善昭委員長と平田治由委員および黒田紀子委員、地域 SNS 「ひよこむ」の皆様、三菱総合研究所の森崎千雅氏、LASDEC、宇多津町政策調整室、宇治市役所総務部 I T 推進課、掛川市役所企画総務部 I T 政策課の皆様へ深く感謝の意を表します。

また、本研究のきっかけを提供いただき、環境作りにおいて支援をいただいた香川短期大学長、石川浩先生に感謝します。

## 参考文献

- 1) 総務省：ICT 地域活性化の総合的な支援体制の整備、[http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/071106\\_2.html](http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/071106_2.html)
- 2) 「地域情報化アドバイザー派遣」(財)全国地域情報化推進協会  
[http://www.applic.or.jp/prom/chiiki\\_adviser/](http://www.applic.or.jp/prom/chiiki_adviser/)
- 3) 丸田一：地域情報化の理念と理論、行政&ADP, pp.4-8, 7(2007).
- 4) 宇多津まちづくりシンポジウム 2006 報告書, 3(2007).
- 5) 酒井雅之：公共サービスのあるべき姿とその実現に向けた取り組み, 情報処理, pp.429-435, 5(2007).
- 6) 日産自動車・千葉県館山市・南房総市とご当地情報をカーナビ向けに配信するサービスを開発, [http://www.nissan-global.com/JP/NEWS/2007/\\_STORY/070418-01-j.html](http://www.nissan-global.com/JP/NEWS/2007/_STORY/070418-01-j.html)
- 7) 森崎千雅：2006 年度地域 SNS 実証実験の成果—広がる地域 SNS の可能性—, [http://www.mri.co.jp/REPORT/LOCAL/2007/06/20070601\\_bsc03.pdf](http://www.mri.co.jp/REPORT/LOCAL/2007/06/20070601_bsc03.pdf)
- 8) 森藤義雄：SNS による地域プラットフォームの構築に向けて, 香川短期大学紀要, pp.61-70, 36(2008).
- 9) 庄司昌彦・三浦伸也・須子善彦・和崎宏：地域 SNS 最前線 Web2.0 時代のまちおこし実践ガイド (アスキー), pp.182-195(2007).
- 10) OpenPNE サイト, <http://www.openpne.jp/>
- 11) WordPress μ サイト, <http://mu.wordpress.org/>